

【研究内容3】 指導・援助、評価の工夫

(1) 調べ考える指導・援助の工夫

私たちは、一人一人の学習状況に応じてできるだけきめ細かな指導を行うため、前単元の一人一人の子どもの実態を単位時間中の学習の様子（発言、ノート）や調べ学習の様子、単元評価テストなどからとらえ、総合的に判断し次の指導に生かそうとした。その結果を下記のようにまとめ、その中でも、特に評価規準の達成度がCの子どもの中心に指導・援助の手立てを決め、指導計画の中に位置づけ個別指導するよう心がけた。特に中心となる授業では、「どの場で、誰に、何を、どのように」指導・援助するか決めておくことで、一人一人のつまずきに対して適切に対応できるようにした。

実践例：

前単元「徳川家光と江戸幕府」の学習状況から
 次の単元「野麦峠を越えた娘たち」での指導・援助に生かす
 一人一人の子どもの学習状況の把握（一部抜粋） - 指導案または補助簿に記入 -

出席番号	名前	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
9	T 男	C 歴史学習に興味関心が弱く、追究する意欲がもてない。	C 江戸幕府が長期政権を維持できたことについて、多面的にとらえ適切に判断することができない。	C 文章資料から読み取ることはできない。また、自分の思いを発表することもできない。	B
12	B 子	B	C 幕府が実施した内容について表面的には分かるが深く理解することができない。	C いくつかある資料の中から、自分で選択をして読解することが弱い。	B

新しい単元での具体的な指導・援助

見学学習や写真、VTR/等を取り入れ、実感をもって事象をとらえさせる 等

友だちの考えについてどう思うか問い返す、また、教師がわかりやすく説明する板書を振り返らせ、それぞれの意味と意味がつながりがあることを認識させる 等

単純化した資料を用意し個別に与える
 教師が寄り添い、資料の見方を説明したり、ともに考える 等

(2) 学びを確かにする相互、自己評価の工夫

評価ポイントを絞る

一つの授業の中にもいくつも評価項目があるが、すべてを正確に評価することは難しいため、前述の（単元指導計画の単位時間の役割）に沿い、1～2項目を着実に評価するよう心がけた。

ノートづくりによる評価

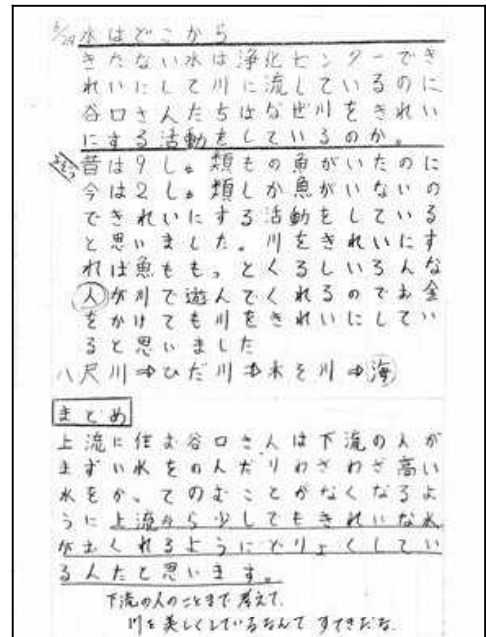
授業での子どもの伸びが確実に分かるようなノートづくり（課題 - 個人追究での考え - 練り合い後の考え）をさせ、一人一人の変容を的確に評価することで、授業改善の足がかりとした。また、教師が、認め励まし、価値付け、方向付けを朱書きすることによって授業への満足感を持たせ、次への意欲を高めるようにした。

終末の自己評価

他教科も含めて本時の基本的な学習姿勢について、終末に自己評価させることで常に学習姿勢について意識付けをるとともに学習意欲を喚起させるようにした。

教科係による相互評価

教科係に授業の始めに目当てを発表させ、終末に評価させることで自分たちの学びを振り返らせるようにした。



(ノート記入例)

